

●古代，西山は文化発信の地でした

西京区の名墳・遺跡

概 略

今もこの西山地域に数多く残る古墳や遺跡は、4世紀頃からのもので、私達祖先の生活の歴史的証拠なのです。山城には、先進国の大陸渡来人「秦氏」が、北は嵯峨野から、南は山崎、東は深草に定住したとされています。そのうち西山地域は、大和山城から山陰地域への交通要衝の地であったために、大きな集落が築かれたものと思われます。秦氏は稲作、土木、工芸技術に優れていたために、古代国家に重用され、文化、経済発展に貢献しました。

古墳や遺跡は4世紀頃からこの地域に登場しています(百々池古墳、一本松塚古墳やそ

の他古墳群、松尾神社、一の塚など)。更に7世紀頃には仏教伝来が盛んになり(檜原廃寺)、その媒介者として「秦氏」の役割は重くなっていったとされています。平安京に遷都される前後には、秦氏に関連した遺跡が数多く見られるようになりました(大原野窯跡群、松室遺跡など)。このように時の政権との関わりが増えた理由は、秦氏の技術力と経済力によるものだと言われています。

平安遷都には、西山地域に勢力を築いていた秦氏の力が大きく働いたに違いありません。古代の西山地域は、文明文化の先進地域であったのです。



古墳の歴史経緯表

地域 西暦	桂川右岸		桂川左岸	鴨川左岸
	長岡	向日	檜原	嵯峨野
300		元福寺 寺戸大塚 五塚原 妙見山	一本松塚 百々池 天皇ノ杜	
400	鳥居前 今里重塚	妙見山 丘高島屋	天照ノ杜	
500	車輪山 福荷塚	物集女塚	清水塚 天鼓森	清水山 天塚 龜山 蛇塚 双ヶ丘
600	今里大塚			

西山地域には、4～5世紀頃に大陸から渡来した人々(秦氏)が多数居住していました。その証拠である古墳は、京都の中でも飛びぬけて数が多く、規模も大きいのです。即ち、平安遷都されるまでの京都では、西山地域が最も栄えた地域であった事がわかります。

(注)記入表示印は規模、形態を表示

こんなに大きな古墳がありました

一本松塚古墳

京都福祉専門学院の南側丘陵の頂上にあります。檜原地域で最古の古墳。(前方後円墳で全長85m前後。破壊されていて今は消滅しています。内部主体は竪穴式石室で、竜虎獣帯鏡などの銅鏡、鉄剣などが出土しています。)

天皇の杜古墳

外形的特徴から4世紀末頃の築造と推定されています。京都市内最大の前方後円墳で全長約86mで塚をめぐらしています。埋葬者名や埋葬施設、副葬品はわかりません。天皇名が付いていますが埋葬者は天皇ではなく、その規模から首長級の墓であったと推定されています。京都市の史跡公園として公開保存されています。



写真：財団法人京都市埋蔵文化財研究所提供

百々池古墳

京都福祉専門学院の横の竹林頂上付近にあります。現在は住宅地になっています。(円墳で直径50m。全壊。割石積みの竪穴式石室。埴輪、三角縁神獣鏡などの銅鏡、車輪石、その他石製品が出土しています。)

桓武天皇御母陵(大枝陵)

桓武天皇の生母高野新笠が祭られています。百済系の渡来人を父とし、土師真妹を母として生まれました。光仁天皇即位前の白壁王との間に、後の桓武天皇となる山部王を産みました。高野新笠は大枝に生まれた縁でこの地に葬られました。桓武天皇の一族の陵墓が多数この地に葬られています。



時代別に古墳を見ました

古墳時代前期

4世紀ごろ築造されたもので檜原地区に顕著に見られます。一本松塚古墳や、百々池古墳などの初期の古墳は丘陵の頂上に造られました。これらは古墳時代前期の首長級のものと推定され、その規模の大きさや豊富な副葬品などからこの地域の集落が発展し、勢力が増していたことを示すものと思われます。

古墳時代中期

5世紀に入ると前期に比べて平野部にも立地が広がり、檜原、御陵、山田一帯では大小の前方後円墳が築かれました。

古墳時代後期

この頃になると洛西地区各所に群集墳が見られます。福西、大枝山、松尾裏山、苔寺などの古墳群で、いずれも円墳で直径20m以下の小規模のものです。

身近に見られるちいさな古墳がありました

下西代古墳群

大原野南春日町一帯にも近年古墳の存在が明らかになりました。それは福西古墳群と同時代の古墳時代後期の円墳で、2基あったことが分かっています。それらは発掘調査されて1基が公開保存されています。特徴的なのは、横穴式石室に小石室を持つ、全国でも類例のない貴重な例があったことで



写真：財団法人京都市埋蔵文化財研究所提供

す。石室内からは須恵器、土師器、金環、鉄製品などが出土しました。



福西古墳群

洛西ニュータウン福西町一帯に多数の古墳が点在しています。6～7世紀頃の墳墓群のうち2基が現存して公開保存されています。いずれも12m～15m径の円墳です。横穴式の石室があり、副葬品として土師器、須恵器などが出土しています。これらの古墳群の中には、中期の珍しい帆立貝式の前方後円墳（全長40m）も混在しています。



古墳あれこれ



- 塚ノ本古墳から出土した石棺が、高円寺の用水路の橋に使われています。
- 古墳が向いている方向を見ると、こんな事がわかるのです！

塚原、大枝、福西の古墳群は石室の向きが小畑川下流に向かって開いています。

それに対し、一本松塚古墳、百々池古墳等の榎原古墳は桂川の方を向いています。そして同時代の集落はその向いている方向にあったようです。即ち塚原、大枝の首長と桂川右岸の首長では、その勢力範囲が違っていたのです。西京区は大きく2つの首長(集落、地域共同体)で構成されていました。近世になってからもこの伝統は受け継がれていたのです。

大原野窯跡群

～どんな器を焼いたのでしょうか？～

洛西地域で陶器を焼いていた窯跡は11ヶ所が判明しています。大半は平安時代のものですが、南春日町の窯は奈良から平安時代の窯です。製造の大半は須恵器と呼ばれる焼成温度の高い陶器を生産していた窯です。それは半地下式の登り窯で、朝鮮半島から伝わった技術によって築かれたと考えられます。大和から乙訓に都が移った時代にかけて、この地区では窯業が盛んになり、平安時代には釉薬が施された緑釉陶器も、大量に生産されるようになりました。

古代の住居跡も調べました

まつむろ いせき 松室遺跡

秦氏は5世紀後半以降に優れた大陸系の土木技術を駆使して、嵐山渡月橋付近に利水施設「葛野大堰」を築造しました。更に「一井の堰」(現存)などによって桂川右岸の水田耕作を容易にし、稲作を定着させました。その当時をしのぶ集落遺跡が松室遺跡です。ここでも灌漑用の水路が発見されており、水田耕作が盛んに行われていたと推定されます。



写真：財団法人京都市埋蔵文化財研究所提供

仏教の伝来の跡がありました

かたきはらはいし 榎原廃寺

7世紀になると仏教伝来が盛んになり、朝廷は仏教を手厚く保護するようになりました。大和には大寺院が建てられたのですが、この西山の榎原にも7世紀中頃に本格的な四天王寺式伽藍配置の大寺が建てられたのです。八角塔を中心に南に中門があり、中門の東西に回廊が続いていたことが発掘調査で確認されています。建立者名や寺名など全く分かっていませんが、寺跡には礎石などが残っていて、榎原廃寺跡史跡公園として保存されています。なぜか歴史的記録がなく、地名からこう呼んでいます。



古代史をめぐるコースマップ

